

テレワークの仮想オフィス出勤を促進する チーム内アウェアネス共有システムの検討

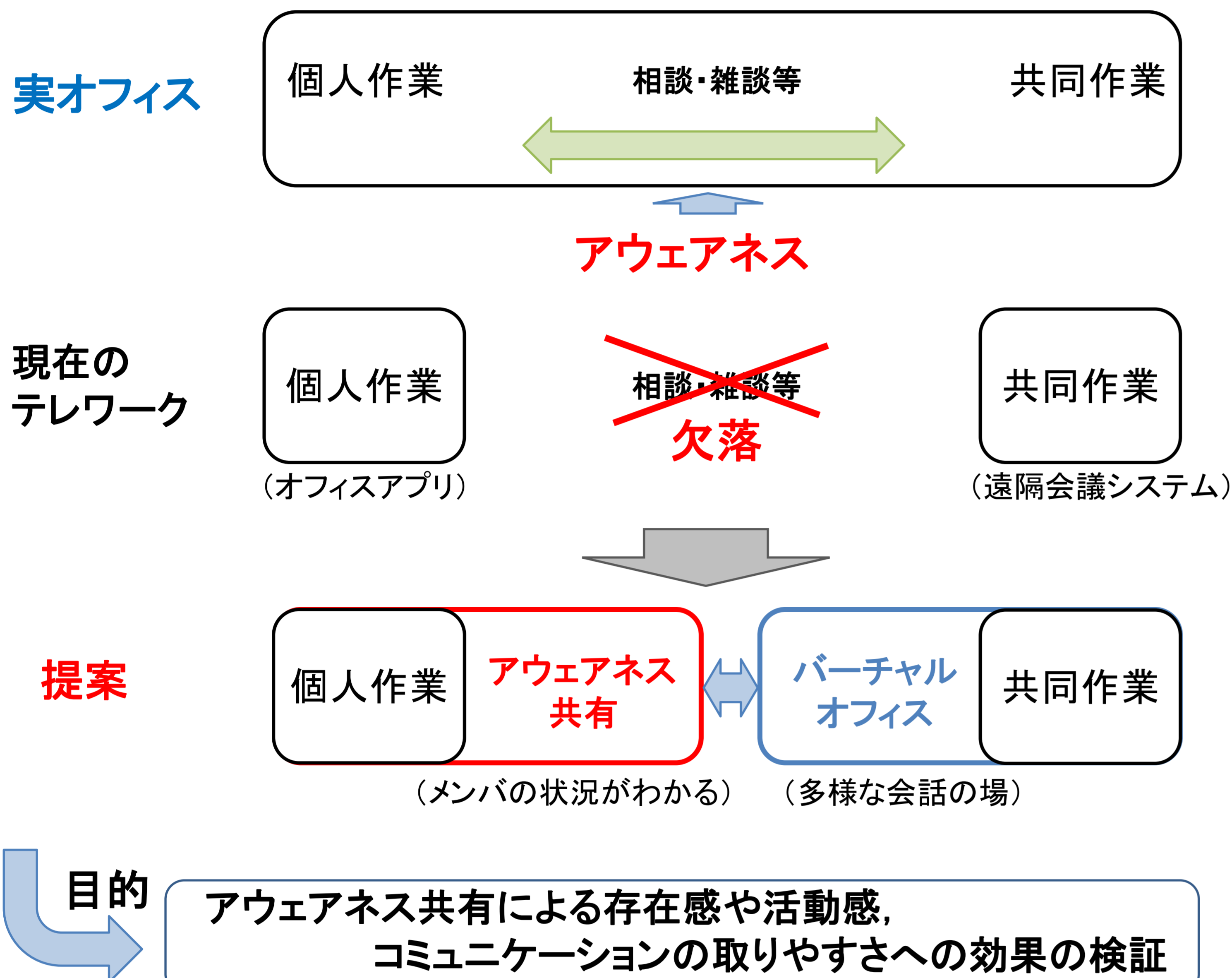
黒崎 航平 藤田 欣也
(東京農工大学)

1. 背景

テレワークにおけるコミュニケーションの取りづらさ

- ・業務効率低下[国土交通省, 2022]
- ・孤立[Boell, et al., 2013]
- ・帰属意識の喪失[Mann & Holdsworth, 2003]

2. 課題と提案



3. アウェアネス共有システム

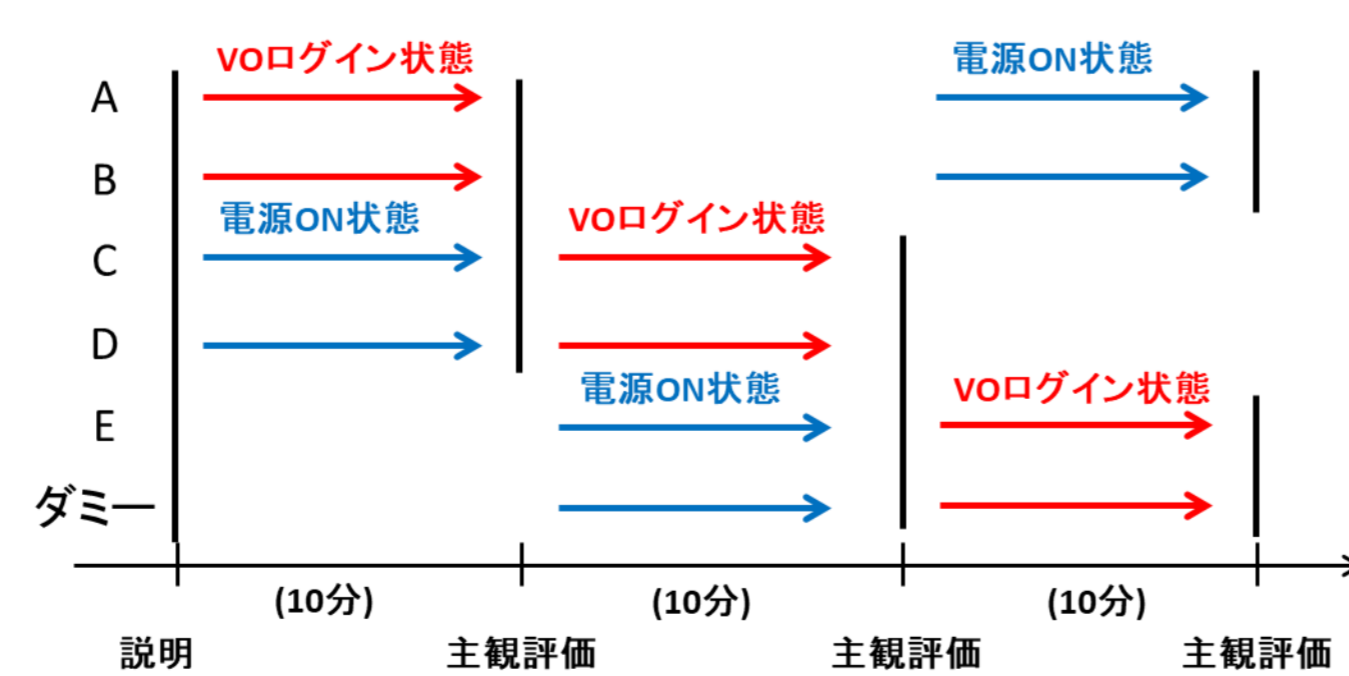


4. 実験

実験参加者: 同じ研究室の5人

- ・電源ON状態
- ・VOログイン状態

それぞれの状態で10分間研究活動
→ 主観評価



評価項目

直接効果

- ・存在感
- ・活動感

間接効果

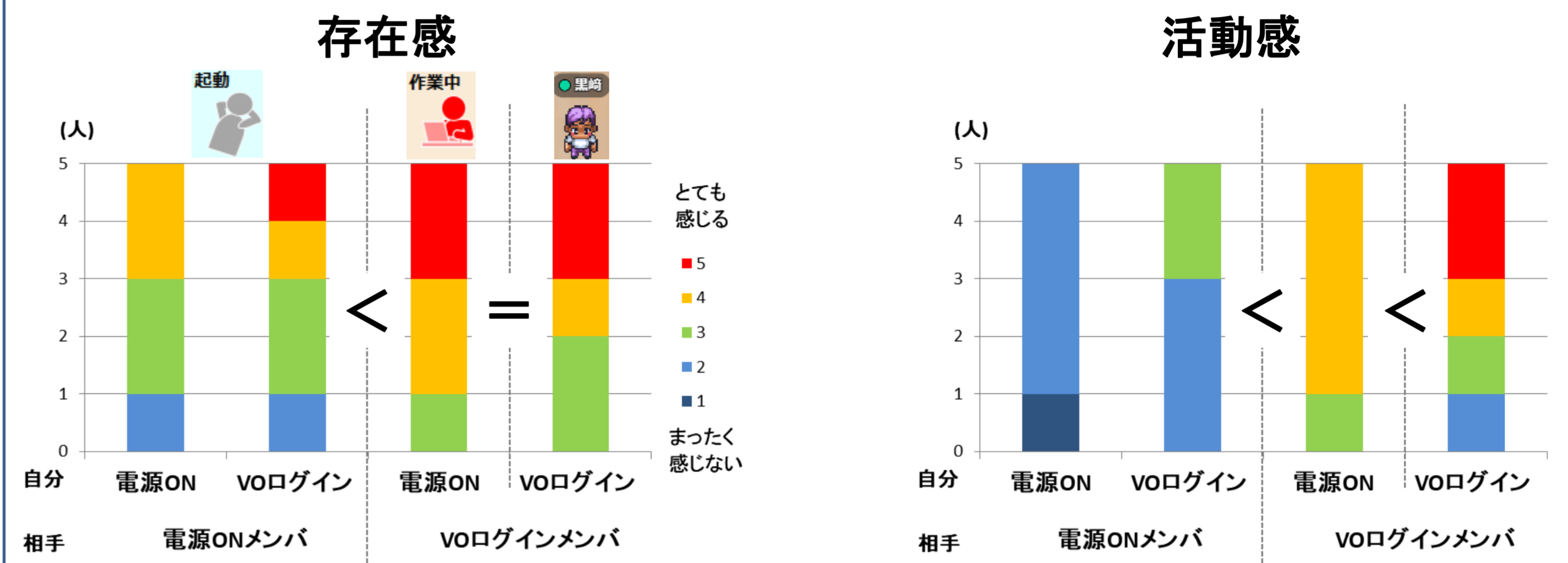
- ・話しかけやすさ
- ・連帯感

負の効果

- ・見られることの忌避感

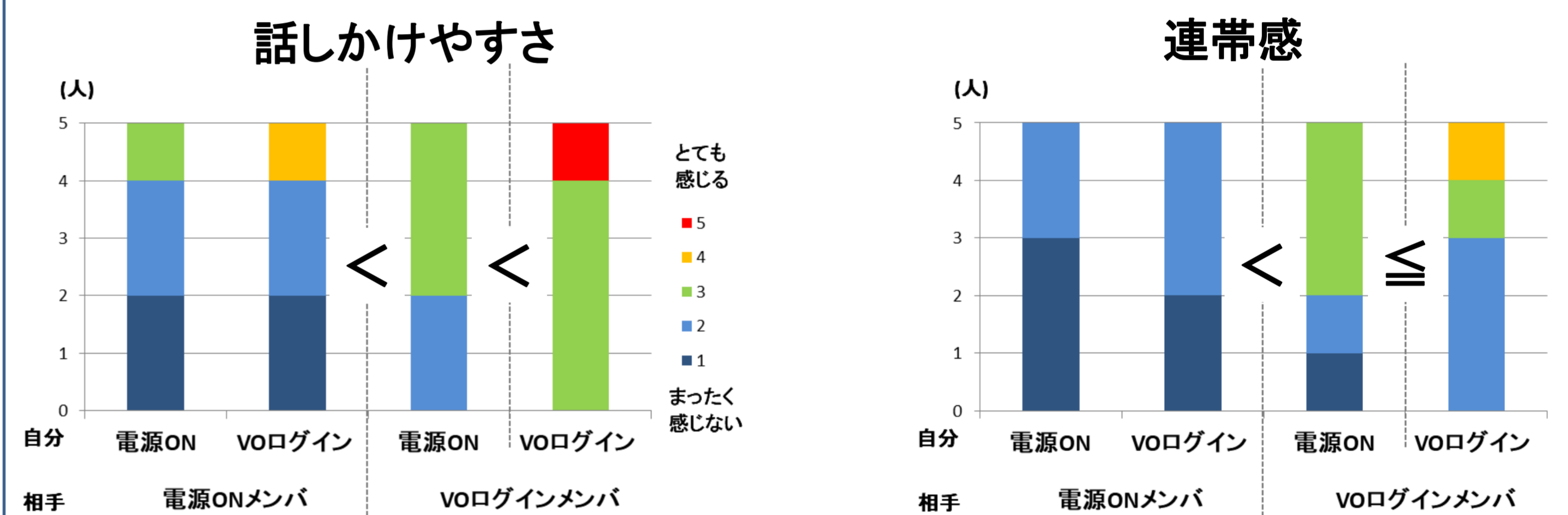
5. 結果

相手が見えることの直接効果



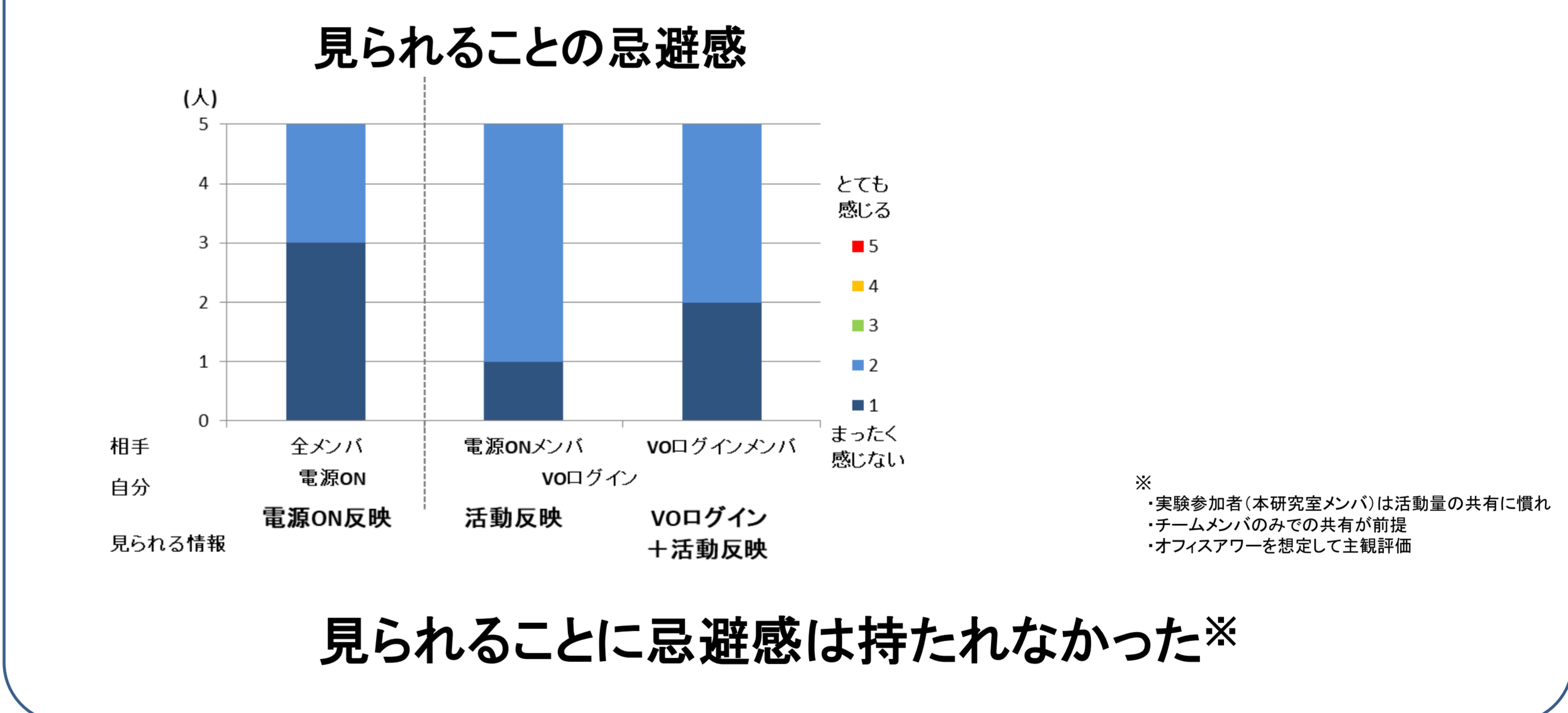
活動を反映するアウェアネス表示は存在感や活動感を感じさせる効果

相手が見えることの間接効果



活動を反映するアウェアネス表示は
コミュニケーションの取りやすさにポジティブに影響する可能性

相手が見えることの負の効果



見られることに忌避感を持たれなかった※

6. まとめ

個人作業と会話のギャップを埋めるアウェアネス共有を
わずかな忌避感で行える可能性

今後

- ・共有しなかったアウェアネスの共有
- ・アウェアネス以外の機能の充実

話しかけやすさと連帯感はVOでも十分な効果が得られなかった

VO側の機能も充実させる必要がある